

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第11回運営委員会議事次第

- 1 日時：令和3年10月13日（水） 11時30分～12時30分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 議事

### I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

#### 【審議事項】

- (1) NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会について……………資料 1
- (2) 令和3年度総会・運営委員会委員の追加について……………資料 2
- (3) Joint Seminar 減災との共同シンポジウム（第5回シンポジウム）の開催について……………資料 3
- (4) 令和3年度活動計画について……………資料 4
- (5) その他

#### 【報告事項】

- (1) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の申請結果について
- (2) 第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について……………資料 5-1～5-2
- (3) R2EC 情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学による  
リカレント教育の実践」開催報告……………資料 6
- (4) 第17回幹事会（R3.7.20）について……………資料 7
- (5) その他

### II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

#### 【審議事項】

- (1) 協働大学院教員の推挙について……………資料 8
- (2) 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としての  
コンソーシアム活動報告の刊行について……………資料 9
- (3) その他

#### 【報告事項】

- (1) 令和4年度大学院入試（令和3年度実施入試）の日程について……………資料 10
- (2) 秋学期における対面授業の実施について……………資料 11
- (3) その他

#### （配付資料）

#### 第11回運営委員会出席者名簿

- 資料 1 NTT 宇宙環境エネルギー研究所 入会届……………P.4～
- 資料 2 令和3年度総会・運営委員会委員名簿……………P.5～
- 資料 3 Joint Seminar 減災・R2EC 共同シンポジウム開催概要（案）……………P.6～
- 資料 4 令和3年度活動計画……………P.7～
- 資料 5-1 第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について……………P.8～
- 資料 5-2 第4回シンポジウムポスター……………P.9～

資料 6	R2EC 情報交換会開催報告 .....	P.10～
資料 7	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 17 回幹事会議事要旨 .....	P.12～
資料 8	協働大学院教員の推挙について（依頼） .....	P.14～
資料 9	紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告の刊行について .....	P.15～
資料 10	令和 4 年度大学院入試（令和 3 年度実施入試）の日程について .....	P.16～
資料 11	本学の活動形態の変更に伴う秋学期における対面授業の実施について .....	P.17～

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第11回運営委員会 出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

出欠	機関	委員	委員代理	陪席者
出席	セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文		IS研究所 企画グループ グループリーダー 高田 直幸
出席	大日本印刷	ABセンター第3本部 グループリーダー 佐波 晶		
出席	日本電気	セキュリティ研究所 主任研究員 柳生 智彦		
出席	東急プロパティマネジメント	B C研究センター 副センター長 真城 源学		B C研究センター 研究員 大野 洋一
出席	NTT宇宙環境エネルギー研究所 ※1	企画部長兼レジリエント環境適応研究プロジェクト プロジェクトマネージャー 岡崎 勝彦 ※2		レジリエント環境適応研究プロジェクト 小山 晃
出席	DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆		
出席	電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	企画グループ スタッフ 主任 舟橋 卓	
出席	日本自動車研究所	代表理事 研究所長 鎌田 実	自動走行研究部 自動走行評価研究グループ グループ長 安部 原也	
出席	電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長 福島 幸子	監視通信領域 上席研究員 古賀 禎	
出席	産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 玄地 裕		エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹 松木 亮
出席	防災科学技術研究所	理事長 林 春男		企画部 部長 西田 亮三 次長 松本 拓己 研究推進課 課長 倉谷 定秋 研究推進課 係長 田代 麻弥
出席	労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長 佐々木 哲也	機械システム安全研究グループ 主任研究員 岡部 康平	
出席	NCDR (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li		
出席	筑波大学	システム情報系教授 システム情報工学 研究群長 遠藤 靖典		システム情報エリア支援室 室長 斉藤 雅彦 主幹 高野 一 大学院教務係長 秋葉 一能 係員 鈴木 朋美 UEA 根本 美南
出席		システム情報系教授 リスク・レジリエ ンス工学学位プログラムリーダー 岡島 敬一		
出席		コンソーシアム事務局長 社会人大学院等支援室長 石濱 悟		

\*1 本日、議題 I 審議事項(1)において審議予定。 \*2 本日、議題 I 審議事項(2)において審議予定。

別紙様式1（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム  
正会員入会申込書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業  
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和3年8月2日

所在地 東京都武蔵野市緑町 3-9-11

機関名 NTT宇宙環境エネルギー研究所

代表者 所長 前田 裕二



## 令和3年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿

(敬称略)

氏名	委員所属等	選出区分
会長 林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群長 システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐波 晶	大日本印刷株式会社 ABセンター第3本部 事業開発第2ユニット 技術開発第2部2G グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュリティ研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	東急プロパティマネジメント株式会社 BC研究センター 副センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡崎 勝彦	NTT宇宙環境エネルギー研究所 企画部長兼レジリエント環境適応研究プロジェクト プロジェクトマネージャー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所 企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事 研究所長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐々木 哲也	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR) Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
石濱 悟	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 国立大学法人筑波大学 社会人大学院等支援室長	第8条第4項(2) 第9条第4項(2)

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

**Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム  
共同シンポジウム開催概要（案）**

**災害の「地域性」を考える（仮）**

日時：2022年2月14日（月）14:00～17:00（受付13:00～）

場所：関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホール+オンライン（予定）

参加無料・要事前登録

<概要>

日本は複雑な地形のもとに多様な地域性が生まれています。災害・防災・減災・レジリエンスを考えたときに、このような地域性はどのように影響するのでしょうか。多角的な視点にたって「災害の地域性」を検討します。

<プログラム>

総合司会：（調整中）

14:00	<b>開会挨拶・趣旨説明</b> 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長、 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長、 Joint Seminar 減災 共同代表）
14:05	<b>第1部 基調講演</b> 基調講演1「ハードの面から考える地域性 ～風水害の特徴とレジリエンスを中心に（仮）」 （講演者調整中）
14:45	基調講演2「ソフトの面から考える地域性 ～災害文化の特徴とレジリエンスを中心に（仮）」 林 勲男 氏（国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授）
15:25	<b>第2部 パネルディスカッション</b> パネルディスカッション「地域性を考えた日本の減災・レジリエンスのあり方（仮）」 モデレーター：遠藤 靖典 氏（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 副会長、 筑波大学システム情報系 教授、システム情報工学研究群長） 登壇予定者：林 勲男 氏（国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授） 河田 恵昭 氏（関西大学 社会安全学部 特別任命教授） 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長） 他、1名調整中
16:55	<b>閉会挨拶</b> 河田 恵昭 氏（関西大学 社会安全学部 特別任命教授、 Joint Seminar 減災 共同代表）

青字：日程等確定

赤字：日程等未定

## 令和3年度年間活動計画

年月	総会・運営委員会	幹事会	リスク・レジリエンス 工学学位プログラム (前期：博士前期課程 後期：博士前期課程)
令和 3年 4月		<b>第16回幹事会</b> 4月13日(火) 11:00-12:00 オンライン (Zoom)	オープンキャンパス 4月18日(日) オンライン
5月			
6月	<b>第4回総会・情報交換会</b> 6月8日(火) 13:30-15:30 オンライン (Zoom)		
7月		<b>第17回幹事会</b> 7月20日(火) 11:00-12:00 オンライン (Zoom)	前期推薦入試・後期内部進学入試 7月1日(木)
8月			後期入試 8月18日(水) 前期入試 8月19日(木) 社会人特別選抜 8月21日(土)
9月			<b>【参考】筑波会議 2021</b> 9月21日(火)～30日(水) ハイブリッド形式(オンライン およびつくば国際会議場)
10月	<b>第4回シンポジウム・第18回幹事会・第11回運営委員会</b> 10月13日(水) オンライン (Zoom) 第18回幹事会 11:00-11:30 第11回運営委員会 11:30-12:30 第4回シンポジウム 13:30-17:00		
11月			
12月			
令和 4年 1月			社会人特別選抜 1月29日(土) 前期入試 1月31日(月)
2月	<b>Joint Seminar 減災との共同シンポジウム (第5回シンポジウム)</b> 2月14日(月) 14:00-17:00 関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホール +オンライン (予定)		後期入試 2月1日(火)
3月	<b>第19回幹事会・第12回運営委員会</b> 3月 日( ) オンライン (Zoom)		

(備考)

※令和2年度は、総会1回、運営委員会1回、幹事会4回を開催。

本案では、総会1回、運営委員会2回、幹事会4回を想定。

※運営委員会・総会未開催の参画機関：

日本電気株式会社、東急プロパティマネジメント株式会社、DRI ジャパン、電力中央研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

## 第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について

令和3年10月11日(月) 17時 00分現在

日時：令和3年10月13日(水) 13:30~16:40

場所：オンライン (Zoomウェビナー)

## 【参画機関】

(網掛けは欠席連絡)

機関名	人数
セコム株式会社	4
大日本印刷株式会社	1
日本電気株式会社	1
東急プロパティマネジメント株式会社	2
一般財団法人 DRIジャパン	3
一般財団法人 電力中央研究所	0
一般財団法人 日本自動車研究所	1
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	1
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	2
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	17
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	1
National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR, 台湾)	4
国立大学法人 筑波大学	39
	76

## 【一般参加】

機関名	人数
札幌市、復興庁、大槌町、美馬市危機管理課、文部科学省、四日市市消防本部、川崎市保健医療部健康づくり支援課、足利市役所健康福祉部健康増進課、岩手県金ケ崎町役場保健福祉センター、茨城県警察、富士通(株)、MS千葉埼玉(株)、ラジオNIKKEI、読売新聞社、(株)カナミックネットワーク、三井不動産(株)、大塚製薬(株)、(株)つくばウエルネスリサーチ、北条情報合同会社、オンサイト計画設計事務所、東急建設(株)、玉野総合コンサルタント(株)静岡支店、(株)NTTデータCCS社会科学システム事業部、NTT宇宙環境エネルギー研究所、(株)アバンアソシエイツ、八千代エンジニアリング(株)、中央復建コンサルタンツ(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、鹿島建設(株)、パナソニック(株)、SOMPOリスクマネジメント(株)、竹中工務店エンジニアリング本部、セコム医療システム(株)運営監理部、(株)モリタホールディングス、(株)ジイケイ京都、時事通信社、国際航業(株)、(株)朝日学生新聞社、TDK(株)グローバルリスク管理部、(株)公職研編集部、日本航空(株)、復建調査設計(株)、日立ソリューションズ、トヨタ名古屋教育センター、読売新聞東京本社、パナソニックリフォーム、東北電力(株)、国家住宅と居住環境工程技术研究センター(中国)、日本原子力研究開発機構、総合地球環境学研究所、(株)都市計画研究所、国際社会開発協力研究所、防災リテラシー研究所、ひょうご震災記念21世紀研究機構、アンチセンス核酸設計研究所、福岡工業大学、広島市立大学情報科学研究科、香川高専、東京工業大学、京都大学防災研究所、東海大学体育学部、常磐大学高等学校、津山工業高等専門学校、東北大学、名古屋大学大学院環境学研究科、宇都宮大学、福岡看護大学、金沢大学、東京大学先端科学技術研究センター、東京大学大学院工学系研究科、九州産業大学建築都市工学部、同志社大学大学院社会学研究科、愛知大学、東京大学公共政策学教育部公共管理コース、四日市大学総合政策学部、高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科まちづくり・防災コース、関西大学社会安全学部、名古屋工業大学大学院社会工学専攻、リスク・フロンティア/電気通信大学、徳島大学、東京理科大学、大阪大学大学院人間科学研究科、岩手県立大学、東北大学教育学研究科、川村学園女子大学、山形大学理工学研究科、聖心女子大学、北九州市立大学、立教大学観光研究所、関東学院大学、和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター、神戸医療産業都市推進機構、社会福祉法人慈光学園、UR都市機構、(一財)住総研、かんまき自主防災ネットワーク、認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸、認定NPO法人人道医療支援会、一般社団法人東京都ポート協会、納屋工房コミュニティデザインラボ、一般財団法人森記念財団、環境関連よろず相談所、一般財団法人日本データ通信協会、AGリサーチ、(一財)武蔵野市開発公社まちづくり課、その他一般個人	122
	122

合計 198

第4回

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム

ニューノーマルに拠る  
レジリエンス社会の実現に向けて  
~COVID-19がもたらした気づき~

COVID-19を強制的なきっかけとして予期しなかった広範囲な社会の変化が起きている。こういった変化を適切に想定/分析し、迅速な意思決定によって適応していく必要性がこれまで以上に重要視されている。

本シンポジウムでは今回のCOVID-19により迫ら

れた社会変化への対応の中で用いられた技術やそこから得られたポジティブ/ネガティブな気づき、コロナ禍が続く中でも今後起こりうる大規模災害への対応方法などについてご講演いただき、予測できない変化が起こり続けるニューノーマル時代のレジリエンス社会構築に向け多角的に議論する。

開催日時 2021年 **10月13日** 水 13:30~16:40

開催方法 オンライン (Zoomウェビナー)

参加無料  
要参加申込

総合同会 西出 隆志 氏 筑波大学システム情報系准教授、リスク・レジリエンス工学学位プログラム

〇13:30-13:35 開会挨拶  
佐波 晶 氏 大日本印刷株式会社、筑波大学 准教授 (協働大学院)

第1部 講演

〇13:35-14:05 講演① コロナ禍における健康リテラシーと政策、世論、及び住民行動との関係  
久野 譜也 氏 筑波大学 教授、大学院スポーツウエルネス学学位プログラムリーダー、スマートウエルネスシティ政策開発研究センター長

〇14:05-14:35 講演② コロナ禍を通して見えてきた情報社会インフラの姿とスマートシティへの適用について (仮)  
田中 淳裕 氏 NEC セキュアシステム研究所 所長

〇14:35-15:05 講演③ ニューノーマルで変わるデジタル防災技術  
白田 裕一郎 氏 国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長  
筑波大学 教授 (協働大学院)

第2部 パネルディスカッション

〇15:15-16:30 パネルディスカッション  
「ニューノーマルに拠るレジリエンス社会の実現に向けて  
~COVID-19 がもたらした気づき~」  
モデレーター 遠藤 靖典 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム副会長、  
筑波大学システム情報系教授、システム情報工学研究群長  
登壇者 第1部講演者

〇16:30-16:40 閉会挨拶  
林 春男 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長  
国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長



久野 譜也 氏



田中 淳裕 氏



白田 裕一郎 氏

申込締切

2021年10月12日 火

参加申込QRコード

[https://r2ec.jp/4th\\_symposium/](https://r2ec.jp/4th_symposium/)



主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

●お問合せ レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局  
(筑波大学システム情報エリア支援室内)

TEL: 029-853-4975 E-mail: r2ec-contact@risk.tsukuba.ac.jp  
参加申込URL : [https://r2ec.jp/4th\\_symposium/](https://r2ec.jp/4th_symposium/)

令和3年7月20日  
レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局

## R2EC 情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと 筑波大学によるリカレント教育の実践」開催報告

下記のとおり、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム情報交換会を開催しましたので報告します。

### 【概要】

令和3年6月8日（火）、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下、R2EC）参画機関による情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践」を開催した。当日はR2ECに参画する11機関から45名の参加があった。今回は筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム（以下、R2学位P）の部局ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会も兼ねての開催となったため、同学位プログラムの協働大学院教員、専任教員からも多くの参加があった。

前半は、筑波大学教授（協働大学院）の藤原広行氏より、昨年度協働大学院教員として実施した授業、研究指導等の実践報告があった。自身が所属する防災科学技術研究所からこれまで2名の技術系職員を学生として受け入れ、研究指導を進めてきた一方で、今後の課題として、防災科研の通常業務から独立した研究指導時間確保の難しさや、筑波大学の教員・学生とのコミュニケーション等の課題が示された。

続いて、藤原氏指導のもとR2学位P博士後期課程に在籍する水井良暢氏より、「指導学生からの報告」と題し、入学後の研究の進捗状況、社会人として博士号を取ることの意義や、これまでの大学生活を振り返っての感想や課題について発表があった。特に重要な視点として、コロナ禍でオンライン中心の大学生活になったことにより、授業の合間等の教員や学生とのスモールトークが起こりづらく、大学における人脈形成や大学を中心とした社会システムに触れる機会が減少しているため、これらの機会を増やす仕掛けが欲しいとの要望があった。

後半は質疑応答および参加者を含めた意見交換が行われ、大学関係者とのコミュニケーション、所属機関内での学位取得に対する支援、所属機関内での通常業務との切り分け、協働大学院方式による学位取得の枠組みのメリット・ニーズ等について、時間をオーバーするほど活発な議論が行われた。特に藤原氏、水井氏双方から提起された大学関係者とのコミュニケーションを増やす仕掛けについて、筑波大学としては、R2学位Pで毎年実施している「学生・教員連絡会」をオンラインでも効果的に実施する方法を工夫しつつ、新たな仕掛けも検討していくこととなった。さらに、本協働大学院方式の枠組みを活用した各参画機関の職員・社員の学位取得奨励のため、筑波大学・各参画機関の双方で、協働大学院教員が指導しやすく、社会人学生が学びやすい環境・支援体制の整備を一層進めていくことが改めて共有された。

日時：令和3年6月8日（火）14：40～15：30

場所：オンライン（Zoom）

テーマ：レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践

-指導教員・学生と協働大学院方式1年目を語る-

参加者数：45名（筑波大学R2学位プログラム協働大学院教員6名、専任教員12名、R2EC参画機関の社会人学生2名、その他R2EC参画機関所属者25名）

【次第】 司会 岡島 敬一 氏（筑波大学 システム情報系 教授、リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー）

- 14 : 40 開催挨拶  
岡島 敬一 氏（筑波大学 システム情報系 教授、リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー）
- 14 : 40~14 : 55 「協働大学院教員による研究指導の実践報告」  
藤原 広行 氏（筑波大学 教授（協働大学院）／防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門長）
- 14 : 55~15 : 15 「指導学生からの報告」  
水井 良暢 氏（筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程／防災科学技術研究所 防災情報研究部 技術員）
- 15 : 15~15 : 30 質疑応答・意見交換
- 15 : 30 総括  
岡島 敬一（筑波大学 システム情報系 教授、リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー）

情報交換会  
**レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践**  
- 指導教員・学生と協働大学院方式1年目を語る -  
2021.6/8(火) 14:40-15:30  
@ オンライン (Zoom)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム (R²EC) と筑波大学が協働で運営する大学院リスク・レジリエンス工学学位プログラムの本格始動から2年目を迎えました。本学位プログラムでは、他に類を見ない協働大学院方式によるリカレント教育を実施し、R²EC 参画機関に所属する方々のスキルアップと学位取得を促進しています。

今回の情報交換会では、実際に学位取得を目指し研究に取り組む社会人学生と、その指導を行う協働大学院の教員から、研究の進捗とその成果を報告頂き、今後のリカレント教育のあり方や指導方法について、オープンなディスカッションを行います。

司会 岡島 敬一 教授（筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー）

14 : 40 ~ 14 : 55 協働大学院教員による研究指導の実践報告  
防災科学技術研究所 藤原 広行 教授（協働大学院）  
◆ 防災科での研究指導の進め方  
◆ これまでの研究指導を振り返っての感想・課題・要望 etc.

14 : 55 ~ 15 : 15 指導学生からの報告  
防災科学技術研究所 水井 良暢 氏  
（筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程）  
◆ 入学からこれまでの研究成果  
◆ 社会人として博士号を取るごとの意義  
◆ これまでの学生（研究）生活各振り返っての感想・課題・要望 etc.  
◆ 社員に求めるスキル・学位取得  
◆ 参画機関に求めるスキルアップの実現体制 etc.

15 : 15 ~ 15 : 30 質疑応答・意見交換

**参加対象**  
大学院での学位取得やリカレント教育に興味がある方をはじめ、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関にお勤めの方は、どなたでも参加可能です。

**参加方法**  
下記のフォームより、6月4日（金）までにご登録ください。  
<https://forms.office.com/r/Z1Hr0w3Kc3>  
※ R²EC 総会構成員・陪席者及び筑波大学教員（協働大学院教員を含む）は申込み不要。

お問合せ レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局  
（筑波大学システム情報エリアを参照）  
r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp (★→@)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム  
Resilience Research and Education Promotion Consortium

図 開催案内

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第17回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和3年7月20日（火） 11時00分～11時40分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱  
陪席者：西田（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、丹羽（〃）、田代（〃）、  
齊藤（筑波大学）、高野（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

## 4 議事

## I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

## (1) 第4回シンポジウム準備状況について

遠藤副会長から、資料1-1～1-2に基づき、令和3年10月13日（水）開催予定の第4回シンポジウムのタイトル・概要・登壇者・周知先等について説明があり、原案のとおり承認された。また、遠藤副会長から、臼田裕一郎氏の講演タイトルが「ニューノーマルで変わるデジタル防災技術」に決定した旨の補足説明があった。さらに、来年の Joint Seminar 減災との共催による第5回シンポジウムについて、7月19日（月）に行われた Joint Seminar 減災事務局の木村玲欧教授と筑波大学のWGでの打合せ内容を踏まえ、次の点が情報共有された。

- 令和4年2月14日（月）午後を候補日とする。
- 対面会場として関西大学梅田キャンパスを仮押さえ済みであるが、開催方法を対面開催/オンライン開催/ハイブリッド開催のいずれにするかは、今後のワクチン接種の状況等を考慮しつつ検討する。
- 講演者は林勲男教授（国立民族学博物館）、糸井川栄一教授（筑波大学名誉教授）を候補として、打診を進める。

## (2) セミナーイベント「Security Days Fall 2021」への後援について

遠藤副会長から、資料2-1～2-3に基づき、昨年度に続き株式会社ナノオプト・メディアからコンソーシアムに情報セキュリティ関連イベント「Security Days Fall 2021」への後援依頼があった旨の説明があり、後援することが承認された。

## (3) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」申請完了について

遠藤副会長から、資料3-1～3-3に基づき、筑波大学を代表機関としてJST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」への申請を完了した旨の報告とともに、今後の審査スケジュールについて情報共有があった。

## (4) R2EC 情報交換会「レジリエンス研究教育推進コンソーシアムと筑波大学によるリカレント教育の実践」開催報告

遠藤副会長及び岡島委員から、資料4に基づき、令和3年6月8日（火）に開催された情報交換会について、参加人数や実施内容等の報告があった。

(5) その他

- ・NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会予定について

遠藤副会長から、JST「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」申請に参画した NTT 宇宙環境エネルギー研究所がコンソーシアム入会を予定しており、現在事務手続きを進めている旨の情報共有があった。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和4年度大学院入試（令和3年度実施入試）の日程について

岡島委員から、資料5に基づき、来年1月～2月に実施する令和4年度大学院入試日程について説明があり、今後もコンソーシアム参画機関所属者で学位取得に関心のある方に向けて、学位プログラムから積極的に周知・情報発信していくことが確認された。続いて、石濱委員から、6月8日（火）の情報交換会でヒアリングした参画機関からのニーズをもとに、学位プログラムや大学としての受け入れ体制整備をさらに進めつつ各参画機関への周知を行うよう提案があった。

(2) その他

岡島委員から、新規の協働大学院教員として、産業技術総合研究所職員で学位プログラムの非常勤講師を務めている研究者1名を推薦予定である旨の情報共有があり、今後、コンソーシアム並びに筑波大学の人事審査フローに沿った手続きを進めることが確認された。

以上

令和3年10月13日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム  
会 長 林 春 男 殿

協働大学院教員の推挙について（依頼）

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム  
プログラムリーダー 岡 島 敬 一

令和2年4月1日開設の協働大学院方式による「リスク・レジリエンス工学学位プログラム」は、現実社会の問題を見据えて社会に貢献する研究者・高度専門職業人を養成するため、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムとの協働で高度専門型の教育研究プログラムを形成し推進しております。

この学位プログラムでは、4つの研究領域（リスク・レジリエンス基盤、都市防災・社会レジリエンス、環境・エネルギーシステム、情報システム・セキュリティ）の教育研究指導体制を強化・充実させ、実施基盤の構築を進める必要があります。現在までに本学位プログラム専任教員に加え12名の協働大学院教員による教育研究体制を構築して参りました。

この度、本学位プログラムでは、環境・エネルギーシステム領域の体制強化を目的として、化学物質リスク評価を専門とした実用化レベルの実務経験を有する優秀な研究者に協働大学院教員として参画いただきたいと考え、下記のとおり協働大学院教員の推挙をお願いする次第です。よろしくお取り計らい願います。

#### 記

対 象 機 関 : 国立研究開発法人産業技術総合研究所  
対 象 分 野 等 : 化学物質リスク評価を専門とした実用化レベルの実務経験  
職 名 ・ 人 数 : 教授（協働大学院）または准教授（協働大学院）・1名

以 上

## 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としての コンソーシアム活動報告の刊行について

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム  
広報委員会

### 1. 趣旨

リスク・レジリエンス工学学位プログラム（以下、学位 P）では、年に 1 回のペースで紀要「リスク・レジリエンス工学研究」を刊行している。今年度の紀要（2022 年 3 月刊行予定）より、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの活動報告を、紀要の別冊として刊行したい。ついては、今後原稿執筆の依頼をさせていただくことがあるので、ご協力をお願いしたい。

### 2. 方針（案）

- ・ 発行者はこれまでどおりリスク・レジリエンス工学学位プログラムとし、本体(学位 P)と別冊（コンソーシアム）の 2 本立てで作成
- ・ 本体には学位 P の記事を例年通り掲載（FD、研究会等の報告含む）
- ・ 別冊にはコンソーシアムの活動報告および会長や参画機関の 2 社程度から寄稿をお願いする

### 3. 検討事項

- ・ 本体と別冊の 2 本立てで良いか
- ・ コンソーシアムの別冊に掲載して欲しいテーマ（R2 学位 P に望むこと、参画機関の研究所（部門）の紹介、協働大学院教員の研究業績等）

### 4. 今後のスケジュール

- ・ 11 月の学位 P 教育会議にて本体および別冊の目次案を検討（事前に内諾を取る）
- ・ 目次決定後、順次執筆を正式依頼
- ・ 1 月中旬：原稿締め切り
- ・ 2 月：校正作業
- ・ 3 月：発刊

以上

令和3年7月20日

## 令和4年度大学院入試（令和3年度実施入試）の日程について

筑波大学大学院リスク・レジリエンス工学学位プログラムの令和4年度大学院入試（令和3年度実施入試）日程について、改めて下記のとおりご案内いたします。レジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関におかれましては、学位取得にご関心をお持ちの社員・職員の皆様へのご周知をよろしくお願いいたします。

## ▶ 博士前期課程

	7月実施 (推薦入学試験)	8月実施 (一般入学試験・ 社会人特別選抜)	1-2月実施 (一般入学試験・ 社会人特別選抜)
出願審査 申請期限 (該当者のみ)	令和3年5月26日(水)	令和3年6月29日(火)	令和3年11月29日(月)
出願期間 (Web入力)	令和3年5月28日(金)12時 ～6月4日(金)15時	令和3年7月1日(木)12時 ～7月16日(金)15時	令和3年12月1日(水)12時 ～12月17日(金)15時
試験日	令和3年7月1日(木)	令和3年8月19日(木)	令和4年1月31日(月)
合格発表	令和3年7月12日(月)	令和3年9月8日(水)	令和4年2月16日(水)

## ▶ 博士後期課程

	8月実施 (一般入学試験・社会人特別選抜)	1-2月実施 (一般入学試験・社会人特別選抜)
出願審査 申請期限 (該当者のみ)	令和3年6月29日(火)	令和3年11月29日(月)
出願期間 (Web入力)	令和3年7月1日(木)12時 ～7月16日(金)15時	令和3年12月1日(水)12時 ～12月17日(金)15時
試験日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば会場： 令和3年8月18日(水)</li> <li>● 東京会場： 令和3年8月21日(土)</li> </ul> <p>※社会人特別選抜の志願者においては、 東京会場での入学試験を選択することも できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば会場： 令和4年2月1日(火)</li> <li>● 東京会場： 令和4年1月29日(土)</li> </ul> <p>※社会人特別選抜の志願者においては、 東京会場での入学試験を選択することも できます。</p>
合格発表	令和3年9月8日(水)	令和4年2月16日(水)

※募集要項および入試に係る最新情報については、「筑波大学大学院募集要項 令和4年(2022年)度」のウェブサイト (<https://www.ap-graduate.tsukuba.ac.jp/course/sie/>) をご確認ください。

令和3年10月1日

学群学生  
大学院学生 各位

教育担当副学長  
加藤 光保

本学の活動形態の変更に伴う秋学期における対面授業の実施について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況が改善している状況等を鑑み、本日付で授業に係る本学の活動形態が変更【 <https://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster-crisismanagement/covid-19/covid-19-20211001.html> 】となりました。

【変更前】：感染拡大に最大限の配慮をして、対面授業、演習・実習を制限しつつ、オンライン授業を中心に行う

【変更後】：感染拡大防止に最大限配慮しつつ、対面での授業を実施できる  
オンライン授業の活用も推奨する

この緩和により、オンライン授業から対面授業への変更を行う場合があります。その際は授業担当教員から速やかに授業形態を変更する旨をお知らせしますので、web 掲示板やmanaba 等での連絡事項に留意してください。

また、研究に係る本学の活動形態も緩和されたため、現在オンラインで実施することとされている実験・実習を伴わないゼミ活動についても対面での実施が可能となりました。

なお、今後本学での職域接種等によるワクチン接種の状況等を踏まえ、「密」を避けるための十分な広さの基準等、対面授業の取扱いについて検討する可能性がありますので、今後も大学からの連絡事項には留意してください。

その他授業実施に関して不安や不明な点があれば、授業担当教員に相談してください。連絡方法が分からない場合は、各エリア支援室に相談してください。